

5-2 教育改革のための情報通信技術活用に伴う知識と戦略的活用の普及

5-2-1 教育改革ICT戦略大会

<事業計画>

中央教育審議会の「質的転換答申」と第2期教育振興基本計画に基づく「大学改革実行プラン」を踏まえて、平成29年度までに取り組むべき教育改革の戦略について共通理解を形成するため、文部科学省の後援を受けて全国の大学・短期大学を対象に「教育改革ICT戦略大会」を継続実施し、ICTの活用を含むアクティブ・ラーニングによる授業や双方向型授業への取り組み、eラーニングによる反転授業の可能性、ラーニング・マネジメントシステムによる学修時間・学修行動の把握、IR（大学機関調査）の重要性と組織的な対応、eポートフォリオシステムなど教学システムについて理解の共有と普及を図る。

<事業の実施状況>

「教育改革ICT戦略大会運営委員会」を継続設置し、「教育改革ICT戦略大会」を開催した。以下に、委員会及び大会の活動を報告する。

教育改革ICT戦略大会運営委員会

平成26年4月19日、6月6日、27年2月21日に平均14名が出席し、3回開催した。教育改革の基本的な課題や情報通信技術を活用した教育改善の政策、主体的学修を実現するための学修システムの工夫、最新の情報通信技術の環境等の知識・理解を啓蒙・普及するために「教育改革ICT戦略大会」の開催計画の策定・実施準備を行った。

(1) 開催計画の策定

大会のテーマを「改革行動の展開に向けて」とし、平成29年度までの「大学改革実行集中期間」に大学力強化に向けた全学的な改革行動への取り組みについて、主体的・能動的な力の育成とグローバルな視点で世界や地域社会に関与できる力の育成を目指した新たな改革行動に向けた戦略・戦術を探究することにした。

プログラムとして特に配慮した点は、一つは学外からの意見を取り入れるため、「産業界から見た教育改革」、「卒業生からみた教育改善」を設けた。二つは主体的な学びを実現するアクティブ・ラーニングの実践例の紹介と課題を考察できるようにした。三つはアクティブ・ラーニングの支援に必要なファシリテータ制度の仕組と学修環境としてのラーニング・コモンズの活用を紹介することにし、1日目に全体会、2日目にテーマ別自由討議で策定した。なお、以上の他に、3日目にICTを活用した教育や支援環境に関する発表を行うとともに、大学・企業共同によるICT導入事例の紹介をポスターセッション形式で実施することにした。開催要項は、83ページを参照されたい。

(2) 開催結果

9月3日から5日の3日間、東京市ヶ谷の私学会館を会場に、187大学、17短期大学、賛助会員13社が参加し、発表者を含めて463名が参加した。以下に全体会とテーマ別自由討議で強調・指摘された点、確認された点を中心に概要を報告する。

[全体会]

- ① グローバル人材育成に向けた教育の課題としては、Communication（協働する心）、Diversity（他人を理解し認める）、Global（世界の要請を視野に）、Identity（自分の専門分野を持つ）、Personality（信頼される人格を養う）であることが指摘された。
- ② 大学教育に対する卒業生からの改善要望として、グループワークなどを取り入れた実践形式での学びの導入、学びの動機付けを図るための卒業生・社会人との対話や接触する場の提供が強調された。
- ③ アクティブ・ラーニングの実施には、学生の気づきを誘発するための「問い」の設計、自学自修徹底のための小テスト、学修を支援するファシリテータ、学修相談を含めた多面的な学びを支援するラーニングコモンズが不可欠であることが確認できた。
- ④ JMOOCによる反転授業の取り組みには、10分単位の映像制作、資料・課題等のコンテンツ開発、ネット上の掲示板運営があり、教員以外にTAと運営スタッフ1名ずつが最低限必要で、開講準備に5か月かかっていることが確認できた。
- ⑤ 自らの目標を自ら見出し実践する「主体性」が求められているが、学生が能動的に学修できる大学の講義や環境整備が遅れている。主体性を引き出すためには、産学連携によるPBL型学修を通じて、初年次の前半に多様な学生の中での学び合い・教え合いの場を設定することが重要であり、多様性・主体性・協働性を培うには大学教育に限界があることから、高校教育との接続を考えた一体的な改革の必要性が強調された。

[テーマ別自由討議]

- ① アクティブ・ラーニング実施に伴う課題としては、能動的な学びの姿勢を持続化させるために、4年間を通したアクティブ・ラーニングのカリキュラムの作成が必要であることと、学生が作成したポートフォリオを教員が授業改善に役立てるなど、双方での学修評価の制度の可視化が必要であることが確認された。
- ② 反転授業の課題としては、何を反転し何を対面授業で行うのか明確な目的が必要であることが強調された。
- ③ 電子教科書導入にあたっては、成績の向上、教育インフラの整備、知識の定着化、積極的な授業の変革など何を選択するのか目的を明確にした上で、電子教科書を使わせる仕掛けづくり、補助教材や講義資料との連携、端末で利用できるコンテンツの充実が重要であることが強調された。
- ④ 学修支援としてのファシリテータの導入は、指導に携わった大学院生自らの成長に大きく役立っていること、ファシリテータの募集・研修、担当教員との密接なコミュニケーションなどの制度的な仕組みが課題であることが確認できた。
- ⑤ ラーニングコモンズを発展的に活用していく課題として、大学の教育目標の達成を見据えたラーニングコモンズの位置づけ・機能の明確化、他の教育支援組織との綿密な連携、全学的な教学IRに関連づけたラーニングコモンズ利用の評価方法の確立、利用に伴う教員間連携の仕組みづくり、学修支援スタッフ育成プログラムの点検などが確認できた。

開催結果の詳細は、事業報告の附属明細書【2-9】を参照されたい。

平成26年度 教育革新ICT戦略大会 プログラム

9月3日 全体会

9:50	開会挨拶 公益社団法人 私立立大学情報教育協会 向 祝 政男 会長	会場 3 階 西 土
10:00	【産業界からみた教育革新】 グローバル人材育成に向けた課題 大学力強化に向けた全学的な改革行動への取り組みとして、世界的変化、地域社会の変化に応じた独自の教育を展開していく必要がある。それには、多様な価値観や世界観が存在する中で違いを受け止め、独自性をもって課題に向き合っていく人材育成が要求されており、分野横断型の教育と専門教育を融合したリベラルアーツ型教育の実現について認識を共有したい。 経済同友会 学校と産業界の交流活動推進委員会委員長 杉江 和男 氏 DIC株式会社取締役会長	
11:00	【卒業生からみた教育改善】 大学教育に対する卒業生からの改善要望 卒業生からみた大学教育に対する意見を踏まえて、大学教育の改善に向けた要望を聞き取りにし、社会で発揮できる能力をいかに育成していくべきか、産学連携、地域社会との連携などの面から考える機会としたい。 入社3~4年の情報系企業の社員数名	
12:00	休 憩	
13:00	【学生の主体性を育む工夫】 アクティブ・ラーニングの試み 学生の主体的な学びを現するための仕組みには、一方向的な授業ではなく、学生の能動的な学修への参加を旨とした授業や学修の工夫が欠かせない。例えば、講義と対話学修の組み合わせ、グループによる事前事後学修と課題発見・解決学修、多人数での双方向授業など、様々な教育方法が考えられている。授業目標を達成するためにどのような方法が効果的であるか、取り組み事例を通じて探求したい。 長崎大学 経済学部教授 西村 久男 氏 北海道大学 理学部教授 鈴木 久男 氏	
14:00	【アクティブ・ラーニングに必要な学修環境】 ラーニング・コミュニティの活用とファシリテータによる学修支援 少数のアクティブ・ラーニングから多人数に向けた学修環境まで、様々な使い方ができる共有施設としてのラーニング・コミュニティの活用実態とその効果について紹介する。また、文章の作り方、情報の読み方など初年次向けの基本的なスキル等の習得と、問題発見能力などの育成をサポートする大学院生、教職員などによるファシリテータの仕組みを紹介し、アクティブ・ラーニングの展開に必要な学修環境について理解を共有する。 創価大学 総合学習センター 副センター長 山崎めぐみ 氏 関西大学 教育推進部 副部長 山本 敏幸 氏	
15:00	休 憩	
15:15	【ICTを活用した新しい学び】 反転授業の実践イメージと環境づくり アクティブ・ラーニングを効果的に進めていく授業方法の一つとして、eラーニングによる学習を義務付けた上で、教室で問題を解かせ、議論させることを通じて、知識の定着と活用を促進する反転授業についてJMOOCでの実態を踏まえて、教育のイメージを共有する。また、反転学修を実現するための教材づくり、プラットフォーム、要員、費用などの条件について整理する。 東京大学 史料編纂所教授 本郷 和人 氏 株式会社NTTドコモ 株式会社 教育推進部 副部長	
15:55	【主体性を引き出すための大学組織としての取り組み】 日本再生のための大学改革一求められる改革行動とは 中央教育審議会「日本再生のための教育再生戦略」などを踏まえて、主体的・能動的学修の育成に向けた実践的な教育への取り組みの重要性を強調していただく。また、初年次教育の一環として、大学1年生に大学で学ぶことの重要性を産業界の協力を得て体験させる中で、社会が学生に期待する学修について自ら気づきさせざるを得ない取り組みを紹介いただく。 中央教育審議会会長、独立行政法人日本学術振興会理事長 安西 祐一郎 氏	
17:00	終	

9月4日 テーマ別自由討議

10:00	【分科会A】 アクティブ・ラーニング実施に伴う課題の考察 学生参加型学修としてのアクティブ・ラーニングを体験することにより得られる効果について、大学の視点と学生側の反応を確認するとともに、対話学修での成績評価の客観性および主体性の定着度の評価を含めて考察する。 開催地: 創価大学 経営学部長 栗山 直樹 氏 山梨大学 工学部教授 森澤 正之 氏	会場:5階 大雷
10:00	【分科会B】 多機能端末の活用と電子教科書導入による教育実践 授業中の学生からの疑問点の書き込みによる授業内容の改善、学生同士の教え合いなど様々な教育に活用している多機能端末の導入と、企業と連携した電子教科書の導入の背景、目的、実施に伴う課題について、事例を踏まえて認識を深める。 開催地: 名古屋文理大学 長谷川 旭 氏 図書館情報センター 長 山住 富也 氏 図書館情報センター 長 山住 富也 氏 青山学院大学 経済学部 宮原 勝一 氏	会場:5階 徳高
12:30	大学・企業によるICT導入・活用事例(ポスターセッション)の概要紹介	
12:45	休 憩	
14:00	【分科会C】 学修支援の仕組みと支援者の養成 全学共通教育で学術的文章の作成を動画配信し、ネットを通じて大学院生が指導する学修支援の仕組みの事例と、グループディスカッションの促進、レポートの点検・整理など、大学院生による教育支援と養成を組織的に展開する事例を紹介し、アクティブ・ラーニング実現のための支援体制について認識を深める。 開催地: 早稲田大学 国際学術院教授 佐藤 紗織 氏 大阪大学 全学教育推進機構構構准教授 堀 一成 氏	
14:00	【分科会D】 ラーニング・コミュニティの発展的な活用 授業外学修の促進を支援するための学修環境として必要な施設、支援スタッフ、支援組織の構成などについて、事例を踏まえて理解を深めるとともに、様々な学修支援の工夫と教育組織との連携を通じた学修の質の向上を考察する。 開催地: 同志社大学 学習支援・教育開発センター 事務長 井上 真孝 氏 立命館大学 総合企画室副室長 経野 孝輔 氏 総合企画室副室長 八戸 隆 文 氏	

情報交流会

※参加費 別途4,000円が必要です。
会場:6階 伊吹

大学・企業によるICT導入・活用事例(ポスターセッション)

会場:5階 西下

9月5日 大会総括(92分)